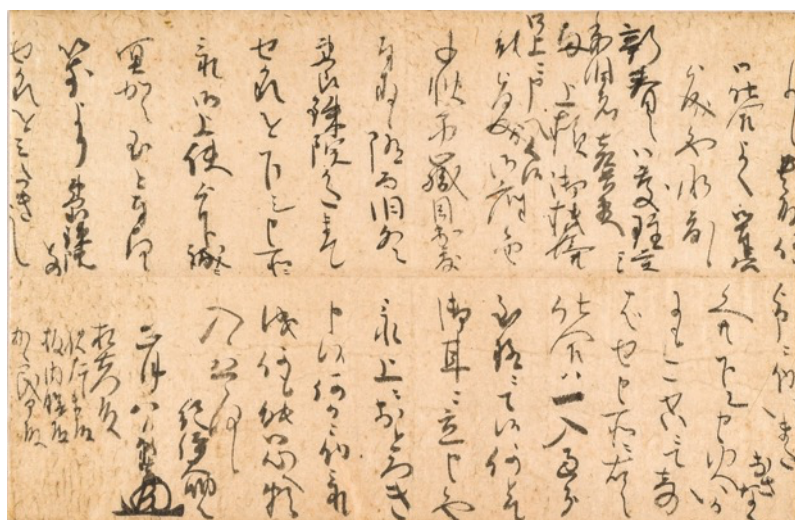


①将軍・足利義晴からの書状（足利義晴御内書 湯河光春宛（展示番号 4））

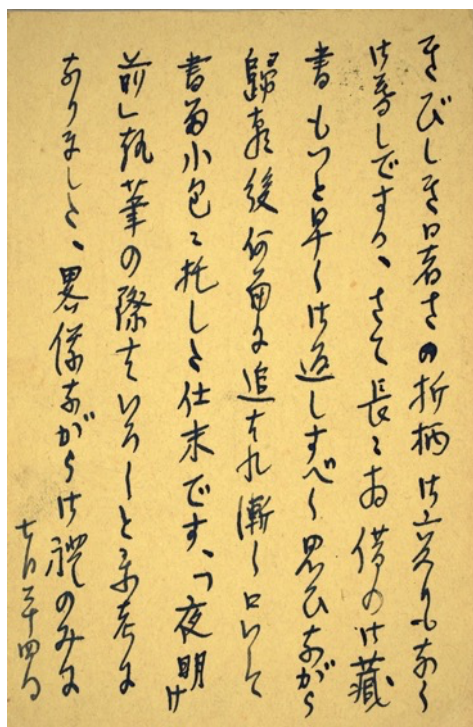
室町幕府 12 代将軍・足利義晴が、幕府奉公衆の湯河氏一族で、広 荘（有田郡広川町）で活動していた湯河光春にあてた書状。摂津国（大阪府）で挙兵していた細川晴元に対抗するため、軍勢催促（出兵命令）をしたもの。私的な書状の形式であるが、将軍の花押が捺され、公的な性格が強い。



②江戸幕府の取計らいに感謝

（徳川頼宣書状 松平正綱ほか宛（展示番号 15））

紀伊徳川家初代藩主・頼宣が、近習出頭人（将軍・大御所の側近）に当てた新年のあいさつ状。頼宣の母・養珠院のもとに、長男・長福丸を向かわせた際、幕府から使いが派遣されるなどの取計らいがあったことに感謝する。



③島崎藤村からのお礼のはがき

（島崎藤村葉書 喜多村進宛（展示番号 36））

南葵音楽図書館や和歌山県立図書館の司書として活躍した喜多村進にあてて、詩人・小説家の島崎藤村が出したはがき。藤村は、小説『夜明け前』の執筆にあたり、和歌山在住の喜多村進から何らかの資料を借りたようで、その資料をかなり後になってから返却する時に、あわせて送られたはがきである。喜多村は、東京に住んでいた明治 41 年(1908)ごろから、藤村に師事していた。